

がん対策推進協議会長 門田守人 様

がん対策推進協議会委員

若尾直子 別添資料

全体目標、がん75歳未満年齢調整死亡率、の目標値再考

本推進基本計画の中で、年齢調整死亡率減少を目標値として設定する際、既存のデータ（人口動態統計より都道府県別75歳未満の全部位男女計がん年齢調整死亡率）のモデルとする西暦年の区間によって、死亡率の予測値（期待値）は大きく変わってくる。第1次がん対策推進基本計画において（2007年策定）、1990年から2005年の区間データ（15年間）を用いて線形近似曲線による推定を行い、「目標を20%減少とする背景として、1990年から2005年のがん死亡率（年齢調整、75歳未満）は、1年あたり約1%減少しており、この傾向が持続するとした場合、2005年から2015年の10年間で10%の減少が見込まれることが挙げられる。以下のがん対策を総合的に推進することにより、この現象の程度をさらに10%加速させ、2015年までに20%減少させることを目標とする。」とされている。そして、がん対策推進基本計画策定時（2007年）もしくは2005年から10年後の75歳未満年齢調整死亡率目標値を設定した。その際、起点となる年月日を計画上で明らかにしなかったため数値目標を何年までに達成するかがファジーであり、その点も、第3次計画では明確にすることが必要であると思われる。つまり、第3次推進基本計画におけるがんの年齢調整死亡率の目標値を設定する際、今までの対策の効果を考慮に入れつつも、今後の対策の効果を期待し、本推進基本計画による死亡率の減少を見込んだ目標値を設定すべきだと考える。と同時に、起点と終点の明記も必要と考える。

以下に年齢調整死亡率を考えるうえでの第2次推進基本計画での理解できない部分と、第3次に向けた提案を示す。

現行では、目標値設定を1990年から15年間つまり2005年のデータを用いて線形近似曲線により推定している。この際、図1～3を見てもわかる通り、1990年から1995年までの推移と、1995年および1996年以降における推移は明らかに違う。第1次がん対策推進基本計画を策定する際、1990年から2005年の15年間のデータではなく、むしろ1995年から2005年の10年間のデータを用いて線形近似曲線を利用し、設定すべきであったと思われる。

図1

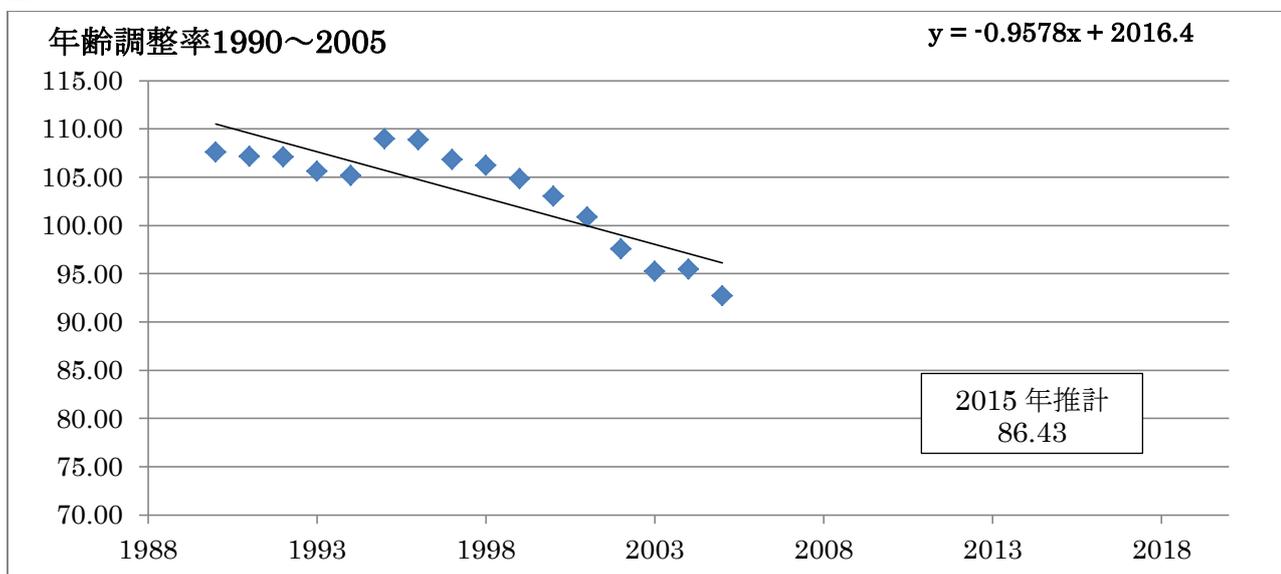


図 2

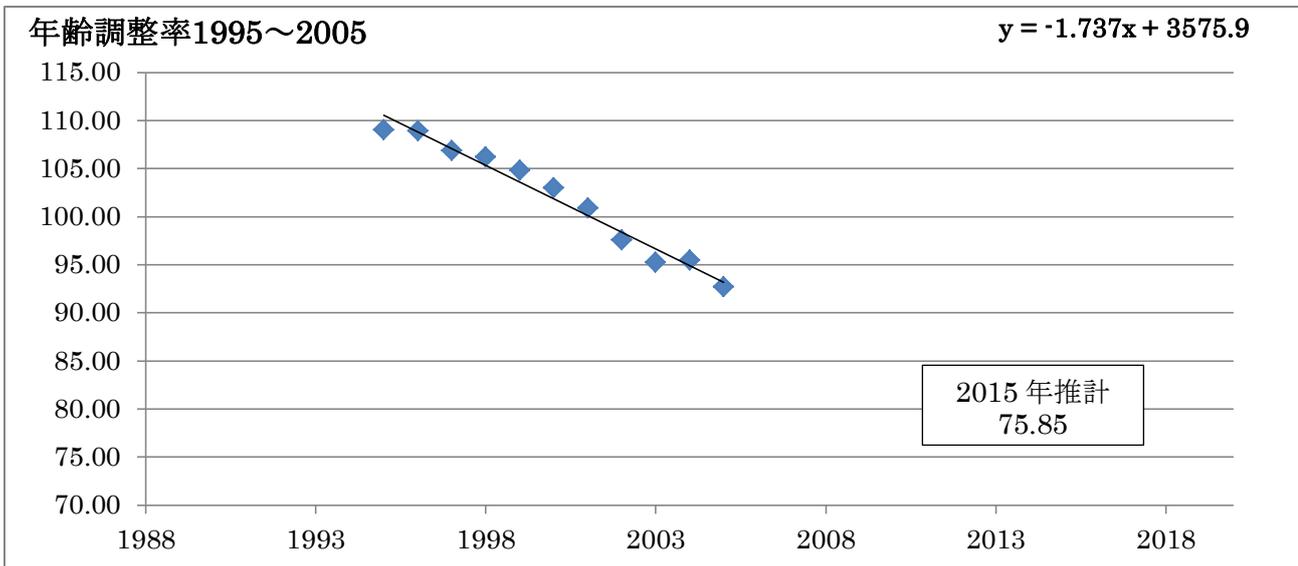
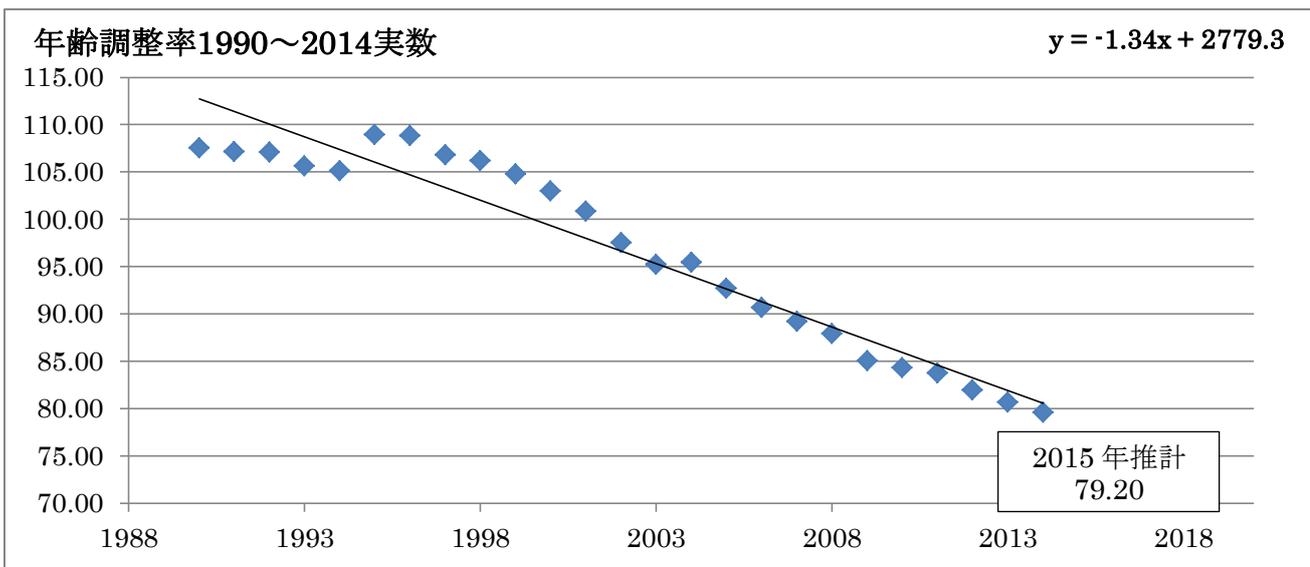


図 3



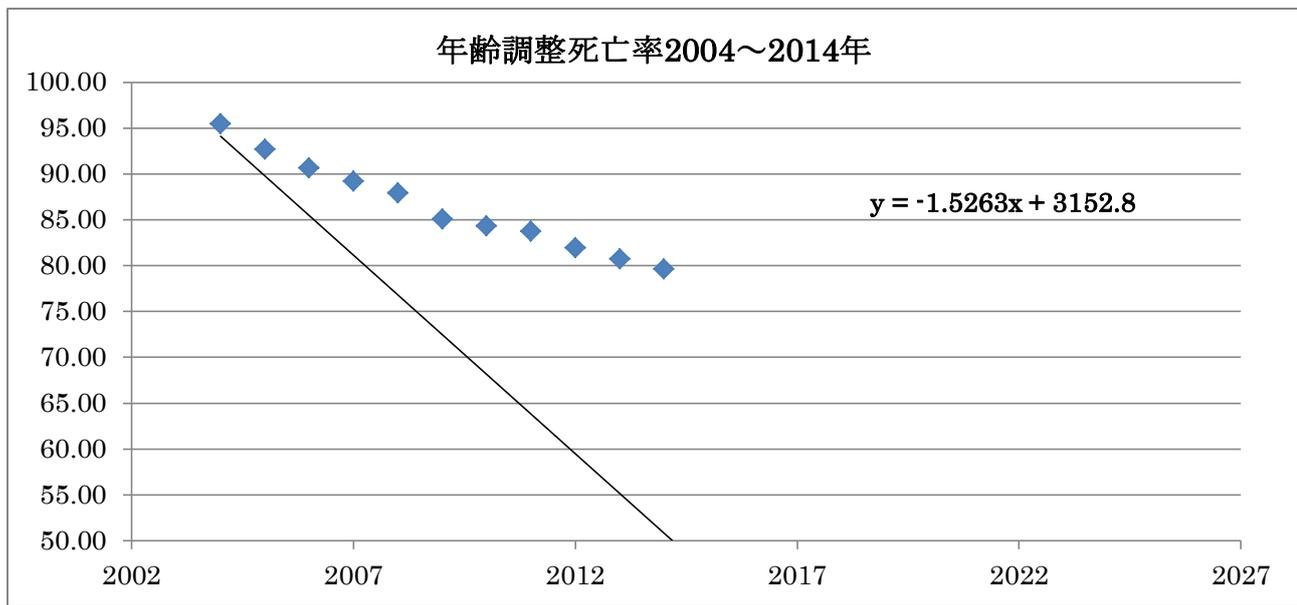
ちなみに、図 1 の線形近似曲線の式で計算すると、2015 年の 75 歳未満年齢調整死亡率は 86.43、図 2 では 75.85 となる。参考までに図 3 では 79.20。

結論

第 3 次がん対策推進基本計画での 10 年後もしくは 5 年度の 75 歳未満年齢調整死亡率目標値は、現在(2016 年現在)公表されている最新データ「人口動態統計より都道府県別 75 歳未満の全部位男女計がん年齢調整死亡率 2004 年から 2014 年のデータ」を用いて推計し、第 3 次がん対策推進基本計画終了時 75 歳未満年齢調整死亡率目標値を設定すべきと提言する。また、目標達成年度も明確にすることも提言する。

追記：死亡率割合は、著しい医学の進歩やたばこ対策、がん検診受診率向上等の目標達成を勘案し、2 次までの計画では一律 20%削減としてきた目標値に関し、科学的根拠を持った専門家の意見に期待する。

参考



以上